# 主　催　者　挨　拶

遠　藤　昭　雄

国立大学財務・経営センター理事長

【遠藤】　皆さん、おはようございます。国際シンポジウム「高等教育システムの改革とその結果」の開催に当たりまして、一言ごあいさつを申し上げます。

大学は、これまで教育と研究を通じて、社会の発展、国民の福祉向上に多大な寄与・貢献を果たしてまいりましたが、今後ともその役割を果たすとともに、さらに発展するということが強く期待されております。

しかしながら、多くの国々で、政府は他の優先政策の実施、あるいは財政上の制約といったことから、大学の教育・研究の持続的発展を支えるに足る十分な公的支援というものが行われていないという指摘も一方でされております。

また、逼迫する財政状況の中で、大学は広く社会に対して説明責任を果たすということについても今日強く求められるようになってまいりました。このため、大学はその使命を明らかにして、財務・経営データを開示するとともに、その成果を自己点検や第三者評価を通して公表しなければなりませんし、さらに、限られた資源をより一層、効率的・効果的に配分・使用する管理や経営が、これまた求められております。

これまで20年以上にわたりまして、世界の多くの国々ではいろいろな大学改革というものが実施されてきました。こうした大学改革の動向を国際的に共有し、比較検討することは大変時宜にかなったものだと考えております。

今回のシンポジウムでは、ポルトガルからアマラル先生、オーストラリアからマージンソン先生、デンマークからシュミット先生、中国から王先生、アメリカからライト先生の、５名の高等教育研究者、あるいは大学管理者をお招きいたしました。各先生から、それぞれの高等教育改革の動向をご報告いただいた上で、ご参加の皆様方とともに議論を深めていただければ幸いに思います。

最後になりますが、遠いところはるばるお越しいただきました海外からのスピーカーの皆様に心から御礼を申し上げたいと思います。また、本シンポジウムが皆様方の理解を深め、その一助となることを期待いたしまして、簡単ですが、私のあいさつとさせていただきます。よろしくお願いいたします。